

科目名	教材・授業研究 I (言語)	担当教員	前嶋深雪
科目属性	専門科目 A	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>本授業では、授業づくりのための教材研究を含め、実践的指導力を高めることを目指しています。言語（国語科）の教材研究は、言葉への深い理解という基礎があってはじめて可能になります。世界中にある数多くの言語の中の一つとしての日本語の特徴をとらえること、日本語の変遷の歴史を知ること——つまりは、言語学の知識と日本語学の知識の獲得——によって、教材の扱い方と授業展開の幅を広げていきます。</p> <p>日本語という言語の特質をつかむことにより、児童生徒が「みずから考え」「言葉を扱うことをおもしろいと感じ」、同時に「読みを深める」ための指導の方法と教材の提供を容易にしていきます。</p> <p>また、文章の構造分析の力も大切です。国語の教科書には、説明文や物語文がテキストとして採録されています。説明文の構造、物語文の構造をきちんととらえるにはレッスンが必要です。そして、構造をとらえられなければ、文章を正しく読み取ることはできません。</p> <p>新学習指導要領には〔知識及び技能〕と〔思考力・判断力・実践力〕として、日本語についての理解と言語能力を身につけ、他者とのやりとりのために必要な日本語運用の育成を目指しています。言語（日本語）の学びは、コミュニケーション能力の育成という「生きる力」を支えるための大事な基盤となります。本授業の具体的な到達目標は、以下の4つとなっています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語学と日本語学の知識を持ち、言葉（日本語）に対する理解を深める 2. 新学習指導要領の鍵概念となる「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点を理解する 3. 児童生徒が日本語の仕組みについて学び、考え、理解するために、〔知識及び技能〕に関する日本語の理解を深める 4. 〔思考力・判断力・実践力〕に関するテキストの読解、言語での表現や創作が楽しいと感じるための授業づくりと教材の工夫ができる <p>【授業計画】</p> <p>全 15 回（2 単位）の講義内容における学修量は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語学と日本語学（第 1 回～第 3 回相当） <ol style="list-style-type: none"> ①ソシュールまでの言語学とソシュールからの現代言語学の歴史と用語 ②日本語の変遷と歴史及び現代日本語の理解のための日本語学 ③言語能力育成とテキストを読むための視点としての言葉のシステム 2. 新学習指導要領（総則と国語科）の理解（第 4 回～第 7 回相当） <ol style="list-style-type: none"> ①主体的・対話的で深い学びへの授業展開と授業デザインへの理解 ②言語能力・言語環境・言語活動の理解と環境の視点としての教育活動と授業づくり ③言語活動を活用した言語運用能力の育成のための視点 3. 国語科の〔知識及び技能〕と授業づくり（第 8 回～第 11 回相当） <ol style="list-style-type: none"> ①漢字や文法、語彙の学び方への視点（言葉を楽しんで学ぶための教材と授業展開） ②古典作品を楽しむための古典作品への理解（教材の工夫と授業展開の工夫） ③言語と情報との関連（情報の受信と発信、情報の理解の仕方と取り扱い方） 			

4. 国語科の〔思考力・判断力・実践力〕と授業づくり（第12回～第15回相当）

- ①「話すこと・聞くこと」の学びの意義と目的及び授業づくりの視点
- ②「書くこと」の学びの意義と目的及び授業づくりの視点
- ③「読むこと」の学びの意義と目的及び授業づくりの視点

【評価方法】

評価については、レポート（オンライン2本・教員提出課題1本）35%、スクーリング35%、科目修得試験30%の割合で総合しての評価となります（受講の年度中に星槎大学の紀要やその他の学術論文誌に掲載が決まった場合は、教員提出課題レポート数にカウントされます）。

レポートの提出は、スクーリング前までにオンライン提出として1本、スクーリング後にオンライン提出1本及び教員提出課題1本となります。スクーリング後のレポートの提出の締め切り期日は特に設けてはいません。学修指導書に挙げた8つのテーマからの自由選択です。

オンライン提出となる2本が単位取得のために必要な最低限のレポート数となります。オンライン提出の2本のレポートの提出後に、科目修得試験レポートを作成することができます。ただし、レポートの最高評価には教員提出課題1本を含めた合計3本のレポートが必要です。

レポートの目的は、基礎知識の充実です。言語学や日本語学中心のテーマとなっています。すべてを面接・対面方式のスクーリング授業で学ぶのではなく、通信制大学院の良さを生かし、みずから学び、深めることのできる知識をレポートで深めてください。

【教科書】

工藤浩 他『改訂版日本語要説』（ひつじ書房、2009）ISBN：9784894764682

【参考図書】

ソシュール『一般言語学講義』（小林英男訳 岩波書店、1972）ISBN：9784000000895

谷口一美『学びのエクササイズ 認知言語学』（ひつじ書房、2006）ISBN:9784894762824

小松英雄『日本語はなぜ変化するか 母語としての日本語の歴史』（笠間書院、1999）

ISBN:978-4305701848

町田守弘『国語科の教材・授業開発論 ―魅力ある言語活動のイノベーション』

（東洋館出版社、2009）ISBN：9784491025049

世羅博昭『6年間の国語能力表を生かした国語科の授業づくり』（日本標準、2005）

ISBN:9784820802587

橋爪大三郎『はじめての構造主義』（講談社現代新書、1988）ISBN:9784061488984

加賀野井秀一『20世紀言語学入門構造主義』（講談社現代新書、1988）

ISBN:9784061492484

立川健二・山田広昭『現代言語論』（新曜社、1990）ISBN:9784788503724

橋爪大三郎・大澤真幸『げんきな日本論』（講談社現代新書、2016）

ISBN:9784062883917

教育課程研究会編著『アクティブ・ラーニングを考える』（東洋館出版者、2016）

ISBN:9784491031859

キャサリン・ベルジー（訳・解説 折島正司）『ポスト構造主義』（岩波書店、2003）

ISBN:9784000268691

河野哲也『エコロジカル・セルフ』（ナカニシヤ出版、2011）ISBN:9784779505485